

第5回 ふるさと松山「新春子規さん俳句かるた大会」競技規程

- 1 大会で使用するかるたは、「子規さん俳句かるた」とする。
- 2 ①小学1～3年生の部 ②小学4～6年生の部 ③世代間交流の部 の各部門をそれぞれ4つのコート（3部門×4コート）に分け、予選リーグ（総当たり戦）を行う。
- 3 各部門で予選リーグの各コート第1位のチームによる決勝トーナメント（準決勝⇒3位決定戦⇒決勝戦）を行う。
- 4 予選リーグ・決勝トーナメントともに1チーム3人の団体戦とする。
- 5 組み合わせの抽選は、大会当日の受付時に参加チームの代表者が行い決定する。
- 6 選手の交代は、大会当日の受付時まで認める。（出場条件を満たしていること。）
受付後の選手の交代は、原則認めない。
- 7 試合開始前と試合終了後は、対戦するチーム同士が畳をはさんで対面に整列し、お互いに礼をする。
- 8 判定は、それぞれのコートに1人ずつ配置する審判が行う。
- 9 試合前の札並べは、審判が行う。審判は、72枚の札を重ならないように、それぞれのチームに向けて36枚（12枚×3列）ずつをランダムに、畳の縁から10cm以上離して並べる。
- 10 試合開始前に10秒間、札の場所を覚える時間を設ける。
- 11 読手が読み始めるまでは、手はひざの上に置くこと。
- 12 読手が読み上げた札に最初に手を触れた者が、その札を取り手元に置く。（元の場所に戻さない。）
札を取る時に別の札をはじいた場合は元の場所に戻す。（試合途中での札の並べ替えは行わない。）
- 13 お手つき（読手が読んだ札とは違う札に手を触れること）をした者は、一回休みとする。
- 14 35枚の札を取り合ったところで試合終了とする。獲得した札は、1戦ごとにチーム別にまとめて審判へ渡す。
- 15 試合後の札数えは、対戦したチームの目の前で審判が行う。
- 16 獲得した札が多いチームの勝ちとする。（引き分けなし）
- 17 予選リーグで勝ち数が同じ場合（1勝1敗）は、2試合で獲得した札の合計数の多いチームが決勝トーナメントに進出する。
合計数も同じ場合は、チームから選抜した選手1人のじゃんけん1回で勝ったチーム（判定は審判が行う）が決勝トーナメントに進出する。
- 18 新型コロナウイルス感染防止対策として、次の点を遵守すること。
選手は試合ごとに手指消毒し試合中はマスクを着用する。
- 19 このルールに違反している状態を認めた場合、審判及び主催運営担当者はこれを注意し違反の是正を求める。注意した後も違反している状態が是正されない場合、当該チームは失格とする。
- 20 その他、必要な事項は主催者が決定する。